

# かわにし

議会だより

第131号

2017

10.15



## 新品種「雪若丸」 を収穫

小松小学校稲刈り体験 P18に関連記事

平成28年度決算 借入金増えるが 財政指標は「健全」	… 2
6 議員が庁舎問題など町政をたず	… 9
特集 政務活動費の領収書公開	… 21
3カ所で意見交換会	… 24

# 借入金増えるが

# 財政指標は「健全」



地域のパワーアップにつながる生産団地に - 平洲農園

## 9月定例会の あらまし

9月定例会が9月5日から22日までの18日間の会期で開催された。  
第1日目に、人事1件に同意、財政健全化法にかかる報告2件の後、条例改正1件、平成29年度各会計補正予算6件を一括上程し、常任委員会、予算特別委員会に付託した。  
また、平成28年度各会計決算認定7件を一括上程し、決算特別委員会に付託した。

第2、3日目に、6人の議員が一般質問を行い、新庁舎整備等を取り上げ、町政をたじた。  
第4日目を以降、常任委員会、予算特別委員会、決算特別委員会分科会を開催し、議案を審議した。  
最終日に、付託した条例改正、補正予算、決算認定を原案通り可決した後、契約変更1件、請願2件の審査報告、意見書3件を可決し、閉会した。なお、今期定例会の傍聴者は35人だった。

# 議会 財政規律を注視

## 平成28年度主な事業

- ①パークゴルフ場整備 1億7335万円
- ②虚空蔵山西線道路改良 9874万円
- ③産地パワーアップ事業 2億7447万円
- ④町民総合体育館整備 6087万円

平成28年度決算の特徴は次のとおりである。  
①単年度収支は4183万円の赤字だが、財政調整基金へ114万円を積み立て、同基金からの取崩額1億6220万円を差し引いた実質単年度収支は2億289万円の赤字となった。財政調整基金残高は6億3456万円となった。  
②最大財源の地方交付税は、置賜広域病院組合分を差し引いた本町

純粋分36億1185万円、前年度比2143万円の減額となった。  
③借入金残高は増加したが、財政健全化法に基づく財政指標（P5参照）は、国の指標をクリアしており、「健全」と判断した。  
④大規模な投資的事業により町債残高が増加し、その負担が大きなウエイトを占めている。億1005万円を積み立てた。

## 基金の残高

	財政調整基金	町債管理基金	庁舎建設基金
平成26年度	7億4044万円	2億6456万円	0
平成27年度	7億9562万円	2億6845万円	1億6000万円
平成28年度	6億3456万円	1億2226万円	3億1005万円

## 監査意見

# 財政健全化に全力を



代表監査委員  
島貫 憲明氏

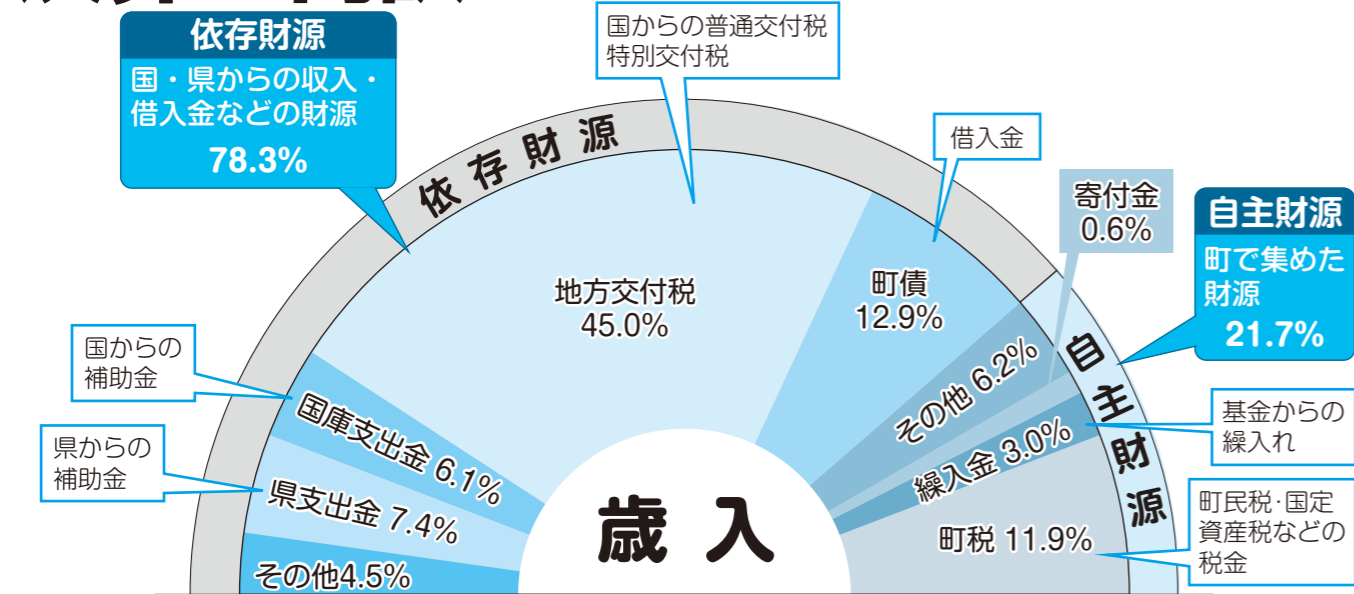
## 一般会計

※経常収支比率91.2%、財政力指数0.242、実質公債費比率10.6%となっている。  
今後の地方財政は、税収入等の見通しが不透明な状況にあり、関係経費の増加などによって厳しい環境にある。平成28年度より「かわにし未来ビジョン（第5次川西町総合計画）」が実施され、今後種々の施策が具現化されていくこととなる。とりわけ公立置賜総合病院周辺開発、役場庁舎建設等、大規模な公共施設整備を控え、財政健全化を図るとともに、本町の発展と魅力ある町づくりに努められたい。

## 水道事業会計

水需要は今後さらに減少が見込まれるので、経費節減、収納率の向上、未収金の回収に努められたい。また、石綿管等配水管の更新工事を計画的に進めていく必要がある。

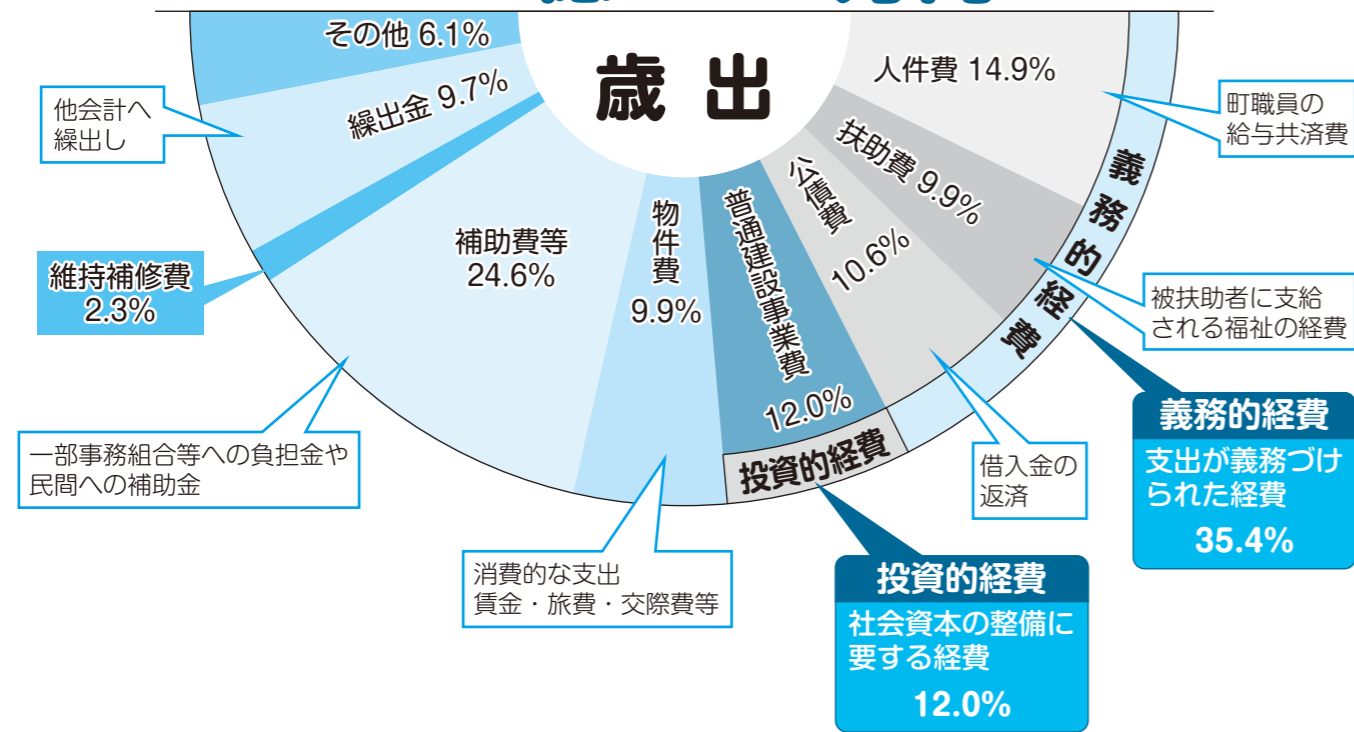
# 決算の内訳



**一般会計**

**歳入 112億5264万円**

**歳出 109億7716万円**



財政指標	平成28年度川西町一般会計等健全化判断比率					
	実質赤字比率 一般会計の赤字額が標準財政規模に占める割合	連結実質赤字比率 全会計の実質赤字額が標準財政規模に占める割合	実質公債費比率 全会計の償還額が標準財政規模に占める割合	将来負担比率 将来一般会計から負担されると想定される金額等が標準財政規模に占める割合	公営企業会計に係る 資金不足比率 資金不足の額が事業規模に占める割合	
川西町	0%	0%	10.60%	125.10%	0%	
国	早期健全	14.25%	19.25%	25.00%	350%	20.00%
	財政再建	20.00%	30.00%	35.00%	-	-

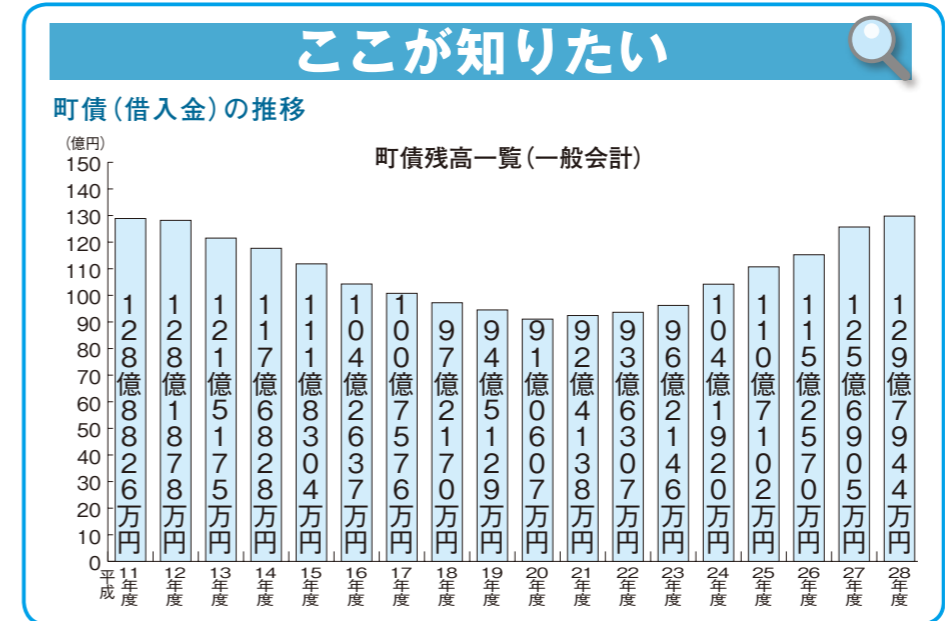
※標準財政規模 標準的な税収、地方交付税、地方譲与税等自由に使える財源の標準的な規模を表す。平成28年度の本町標準財政規模は64億4140万8千円。

# 平成28年度各会計決算の議決状況

会計別	歳入	歳出	議決の内容
一般会計	112億5264万円	109億7716万円	全員賛成により認定
国民健康保険事業特別会計	20億6845万円	20億1468万円	全員賛成により認定
下水道事業特別会計	5億5527万円	5億4460万円	全員賛成により認定
農業集落排水事業特別会計	9393万円	9052万円	全員賛成により認定
介護保険事業特別会計	18億1859万円	17億7776万円	全員賛成により認定
後期高齢者医療特別会計	1億5835万円	1億5598円	全員賛成により認定

水道事業会計	収益的 <sup>※1</sup>	5億102万円	4億6952万円	全員賛成により認定
	資本的	1億9026万円	3億2991円 <sup>※2</sup>	

※1 「収益的」収支は水道水給水の収入と支出。「資本的」収支は水道施設に係る収入と支出  
 ※2 不足する1億3965万円は消費税調整額、損益勘定留保資金で補てんした。



決算特別委員会は常任委員会を単位とする2分科会で構成され、一般会計など7会計を審議した。ここで

**大丈夫か 続く大型事業 借入金年々増える**

**総括質疑**

交流事業の成果はどうだった

橋本 欣一 議員

平成28年度の施策の成果中、交流について詳しく述べている。具体的な成果は、

町長 多くの交流活動の中で、特に、地域おこし協力隊は11人で県内では最多である。農業部門での協力は、

橋本 全国学力テストの結果で山形県は標準以下と公表されたが、川西町はどうか

教育 標準を上回っている。成績にこだわらず、教育指導の指針に活用したい。

鈴木清左衛門 議員

新庁舎建設などにかかると、第5次総合計画の基本計画の見直しにおいて、変更という手続が必要なのではないか。地方自治法が改定され、総合計画の議決は、自治体の判断によることになった。

た。本町では、議会基本条例において基本構想・基本計画が議決事項になっている。

基本計画には「新庁舎の早期整備を町民の理解を得ながら進めていく」とある。今後とも基本計画に沿って事業を進める。

愛知大・神戸国際大

交流受け入れを強化せよ

**問** 交流基盤確立事業の内容は。

**答** 愛知大学のフィールドワークや、神戸国際大学のインターンシップで来町した大学生が、本町のまちづくりを調査研究し、提言している。

**意** 今後一層、個人団体と連携し、

交流受け入れを強化すること。

**問** 町税のコンビニエンスストア納

入はどの程度になっているか。

**答** 窓口納付のうち、約31%がコンビニでの納付である。

**問** 平成28年度の、ラスパイレシ指



まちの魅力発見 愛知大のワークショップ

数はどうなっている。

**答** 97・5で、27年度と同様であった。

**問** 防災士の養成の状況は。

**答** 28年度の防災士の養成は、研修会受講による認定者3人、申請行為による認定者1人、合計4人である。

**問** デマンドタクシーの利用が減っているのはどういう理由か。事故が発生した場合の保障は、どうするのか。

**答** 利用者が減少しているのは、人口減少と運転免許証を所持する高齢者の増加が要因と分析している。また、デマンド交通

利用時に事故が発生した場合の保障は、契約条項により委託業者が行うことになっている。

**問** 自治会未加入者のゴミ回収はどうなっている。全地区週2回の回収はどうか。

**答** 当該自治会長に当該自治会長の使用について相談するよう指導している。燃えるごみ回収を週2回に増やすことを、委託業者と協議しており、実施に向けて努力していく。

**問** 子育て支援の実状は。

**答** 子育て環境の充実を目指し、保育所、幼稚園をはじめ、放課後児童クラブ、ファミリー・サポート・

センターの環境整備に努め、お誕生日祝い品支給事業を実施している。支援を実施している。

**問** スクールバスの更新計画は。

**答** 年次計画を定め、計画的な更新を検討している。児童生徒の安全を確保するよう。

**問** 天神森古墳の管理状況は。

**答** 文化財保護協会、小松北区ボランティア会による草刈等の環境整備活動が実施されている。

**意** 町としての管理の在り方を研究するように。

※ラスパイレシ指数 国家公務員行(一)の俸給月額を100とした場合の地方公務員一般行政職の給与水準。

決算  
審議

産業厚生  
第2分科会  
鳥獣被害対策  
猟友会への支援拡充を

**問** 猟友会による鳥獣駆除への支援が不足しているのではないか。

**答** 鳥獣被害防止対策を推進するため、「農作物鳥獣被害防止対策協議会」および猟友会へ運営支援を行っている。(下表参照)

**意** 実働部隊である実施隊員や猟友会に対する支援の拡充を図ること。

**問** ふるさと納税の28年度の実績はどうか。

**答** 寄付額に応じた返礼品の充実等により、前年の10倍になる5820万円となった。

**意** 一層の寄付金の増額を目標に、積極的なPRと返礼品の充実を継続すること。

**問** 民生委員児童委員の活動支援はどうか。

**答** 国、県、町の負担基準により、338万円を補助している。

**問** シルバー人材センター支援事業の内容は。

**答** 活動日数、件数とも増加していることから、さらなる支援に努めるように。



クマを捕獲するために「おり」を設置している

**問** 民生委員児童委員の負担軽減のため、2人を増員するとともに、活動費を増額した。

**答** 活動日数、件数とも増加していることから、さらなる支援に努めるように。

**意** シルバー人材センター支援事業の内容は。

**答** 国、県、町の負担基準により、338万円を補助している。

**問** 高齢者の就業場の確保や、就業環境の改善に努めること。

**答** 29年3月に新制度となったため、28年度はそれまでの委員22人分と新委員10人分、ならびに農地利用最適化推進委員16人分の報酬を支給した。

**意** 高齢者の就業場の確保や、就業環境の改善に努めること。

**問** 農業委員の報酬について問う。

**答** 29年3月に新制度となったため、28年度はそれまでの委員22人分と新委員10人分、ならびに農地利用最適化推進委員16人分の報酬を支給した。

**意** 農業従事者の高齢化や後継者不足、30年以降のコメ政

**問** 町の花「ダリヤ」トップランナー育成事業の内容は。

**答** 2人のトップランナーについて、販売目標額1000万円。

平成29年度 鳥獣捕獲交付金				
区分	対象頭数	国県交付金	町報償費	計
サル(成獣)	30	8000円	3000円	1万1000円
サル(幼獣)		1000円	3000円	4000円
クマ	5	8000円		8000円
イノシシ	2	8000円		1万6000円
ニホンジカ	2	8000円		8000円

平成28・29年度鳥獣捕獲手当			
区分	平成28年度 1回あたり	平成29年度 1回あたり	比較
鳥獣被害発生時対応	1100円	3000円	1900円
おり設置・撤去	1100円	3000円	1900円
おり見回り等	1100円	1500円	400円
捕獲活動・解体作業等	1100円	3000円	1900円
鳥獣出没状況把握活動	1100円	1100円	0

# 一般質問

## ここが聞きたい!

# 6人の議員が一般質問

# 町政をただす

定例会第2日目、3日目に一般質問が行われ、6人の議員が町政について質問した。

通告順（発言順）に記載する。

10 <sup>P</sup>	淀 秀夫 議員 1 新庁舎建設事業の今後の説明会 2 議会新庁舎整備特別委員会との話し合い
11 <sup>P</sup>	神村 建二 議員 1 新庁舎建設について 2 置賜定住自立圏構想の推進について
12 <sup>P</sup>	伊藤 進 議員 1 農業施策について 2 生活基盤について
13 <sup>P</sup>	橋本 欣一 議員 1 庁舎建設について 2 水害対策について
14 <sup>P</sup>	伊藤 寿郎 議員 1 公共施設等総合管理計画について 2 活力のあるまちづくりについて
15 <sup>P</sup>	鈴木清左衛門 議員 1 川西プロジェクト2 2 環境の拠点づくり6 3 地域安全対策

白抜きの数字は掲載された質問。それ以外は紙面の都合により掲載できなかった。その内容は、議会ホームページの録画中継によって見ることができる。

(<http://www.town.kawanishi.yamagata.jp>)

**一般質問とは**  
一般質問は、町の行政全般（一般事務）に関し、執行者所見や疑義について質問できるものである。  
質問する議員も受ける執行機関も十分な時間が必要なことから通告制とし、事前に質問内容を通告することとしている。本町議会では質問と答弁がかみ合うように、全文通告制がとられている。  
また、質問に対する答弁書が作成され、一般質問当日の朝に全議員に配布される。質問時間は、1人につき質問答弁を含め60分以内で完了することとされている。  
再質問からは、一問一答方式が採用されており、時間内であれば何度でも再質問ができる。

# 町長に聞く

平成28年度の決算審議を踏まえて、特に政策的な事項を町長に聞いた。

## 地区交流センター 地域づくりの継続・発展を目指せ

**問** 各地区交流センターの経営結果と今後の在り方について問う。

**町長** 地区交流センターの運営に対する町の評価は指定管理業務に掲げる内容を対象として、実績報告や聞き取りを実施している。

平成28年度は7地区とも5点満点中4点以上の「良好」であった。町では、地域の協働



地域づくりの拠点 - 小松地区交流センター「まんまる」

のまちづくりを推進するため「地域自立推進制度」を設けている。地域自立推進制度は、①職員の地域担当制や地域おこし協力隊のサポート等の人的支援  
②定例のセンター長会の開催による行政との連携、情報交換、研修等の体制連携  
③「まちづくりマイスター養成講座」や「若者未来塾交付金事業」による人材育成の3つの柱からなっている。  
これまでの地区の取り組みを尊重し、さらなる充実発展を目指している。  
**意見** 職員は、本町が進める「協働のまちづくり」の推進役であり、業務も質量ともに増えていることを

考慮し、処遇改善に努めてほしい。また、各地区が取り組む特徴的な地域づくりを継続・発展させ、全町への波及に向け、支援・連携を図ること。

## 「森のマルシェ」加工品の開発を

**問** 「かわにし森のマルシェ」は平成28年5月に開業したが、1年間の実績と今後の展開について問う。

**町長** 「森のマルシェ」の29年3月までの総売り上げは、目標額の1億4千万円には届かず、約7200万円であった。販売額全体の70%を占める委託販売約5200万円から販売手数料約800万円を差し引いた、約4400万円が生産

者に還元された。来店者数は、286営業日でレジ通過者が約7万3000人をカウント、来客数はその倍以上と考えられる。今後の運営方針は、次のとおり。  
①本町と縁がある市町村や、市場との連携を図り、商品の交流や時季に応じた特色ある農林水産物を販売する。  
②SNSを活用するなど、情報発信や、季節ごとのイベント実施。

③通信販売やふるさと納税返礼品に対応できる商品開発。  
④町、置賜農高、各団体と連携し、町内産や観光の情報発信。  
⑤「6次産業推進アドバイザー」を設置し、多品目化や冬期の品薄状態の解消。  
**意見** 農畜産物の加工品の開発、イベントの充実を図るとともに、ダリヤ園との連携を図り誘客に努めること。



マルシェ独自の加工品を

# 新庁舎用地は素案の見直しを

## 町長 - まちづくりの観点で絞り込んだ

最初に住民の声を聴くべきではないか

**神村** 7月27日町から新庁舎位置(用地)の素案が示されたが、本来は素案の内容を示す前に住民の声を聴いて、住民の考えや総意がどこにあるのかを把握すべきではなかったか。

**町長** 庁舎の建設位置については、町の将来のまちづくりの在り方に直結する重大な事項であり、国の支援期間である平成32年度までの完成を目指すことを踏まえた場合、さまざまな意見集約の時間が限られている中、

できるだけ早急に結論を出す必要があり、優先して検討を進めてきた。なぜ民有農地なのか

**神村** 素案で示された所在地と「民有農地」との比較において、「民有農地」が適しているとの説明であった。しかし、新庁舎の位置については、町の考え方として①町有地を優先的に考える②農地は転用などに時間がかかるため対象外とする③官公署などがある交通等利便性のあるところとする、と言ってきたがこの方針はどこへいつ

**町長** 新庁舎計画は、山形おきたま農協本店の南側民有地に建設されると新聞で報道され、多くの町民が驚いたようだ。小松地区4自治会が町当局に説明を求めた。小松地区の人口はおよそ5千人、町の約3割の住民が住む中心部となっている。なぜ農協南側になったのか。

**町長** 7月29日議会全員協議会で説明

し、機能、規模を検討し最適とし絞り込んだ。町報の「町長室から」にも載せている。

**町長** 国は今年から財政優遇措置を始めた。町もその措置を利用し、今年度から4年間で新庁舎を建設することになった。事業規模と資金は。

**町長** 主な財源は庁舎建設基金、地方債など、他に一般財源の圧縮に努める。

**町長** 現庁舎をはじめ他の町有地についても検討を行ったが、最終的に、まちづくりの観点で現庁舎地に絞り込みを行い検討した。その結果、現敷地内で建設する場合、仮設庁舎の整備、工事スペースの確保、工事中の駐車場確保等の課題が明らかになった。

このため、あらためて民有地も含め再検討した結果、山形おきたま農協協同組合本店の南側隣接地を最適地として、町の新庁舎整備位置案とした。



淀 秀夫 議員

## 新庁舎建設計画が先行したが

### 町長 - 位置の絞り込みを優先

#### 新庁舎建設

#### 一般質問



候補地として提案されたJA山形おきたま本店南側

**町長** 7月29日議会全員協議会で説明

**町長** 現庁舎をはじめ他の町有地についても検討を行ったが、最終的に、まちづくりの観点で現庁舎地に絞り込みを行い検討した。その結果、現敷地内で建設する場合、仮設庁舎の整備、工事スペースの確保、工事中の駐車場確保等の課題が明らかになった。

**町長** 町債残高が125億9600万円。この内、過疎債等交付額を除いた負担額は44億4300万円、持続可能な町づくりができる。

**町長** 外部委員会は、新庁舎整備の推進に係る提案、意見、助言等を得る委員会である。

**町長** 第3回小委員会では、整備位置の経過を説明、意見をいただいた。

**町民の不安**  
**淀** 説明会では、著しい人口減少、抱える借金により、保育園や診療所建設への影響はどうなるか。現庁舎跡地の活用、住民サービス低下など、不安の声が多かった。

**町長** 287号パイパス整備等の用地売買実績の情報を分析し、農業振興地域整備計画の変更手続きを進める。用地取得の相場は、地価公示価格、近隣用地売買実績等の情報を収集し、分析しているところだ。

**町長** 新庁舎整備特別委員会との話し合いは

**町長** 13名の外部委員会がある。今回の新庁舎の件は、新聞に載る前に説明しているか。

**町長** 町議会の新庁舎整備特別委員会と、町当局との話し合いは行われたのか。町民から、議会は何をしているんだとの声もある。

**町長** 町議会の新庁舎整備特別委員会

**町長** 現庁舎をはじめ他の町有地についても検討を行ったが、最終的に、まちづくりの観点で現庁舎地に絞り込みを行い検討した。その結果、現敷地内で建設する場合、仮設庁舎の整備、工事スペースの確保、工事中の駐車場確保等の課題が明らかになった。



窓口は重要なサービス業務

**神村** 住民の考え・意見を丁寧に聴くという視点から、素案であっても仕切り直しをして再度検討する、このことが今一番必要なのではないか。勇気ある英断を望む。

**町長** 定住自立圏構想に向けた取り組みに主体的、積極的に参画し、本町の課題解決を図っていきたい。

**町長** 置賜定住自立圏構想の推進



神村建二 議員

**町長** 全町的に町民の意見をいただきながら、新庁舎整備基本計画の策定を図って

**町長** 定住自立圏構想に向けた取り組みに主体的、積極的に参画し、本町の課題解決を図っていきたい。

**町長** 置賜定住自立圏構想の推進

農業政策

平成30年からのコメ政策で生産者への対応は  
町長・再生協議会臨時会を経て提示する



伊藤 進 議員



収穫を喜ぶ農業政策を

**伊藤** コメの作付けが個人の自由なら、管理に苦勞する畑作物より、慣れたコメに戻すかという話を耳にする。町は、どう対処するのか。

**町長** 自らの経営判断という説明がコメの作付け自由という解釈をされている。民間在庫過剰となれば米価下落は過去のデータが示している。需要に応じたコメ生産を行わないと、結果的に水田フル活用による農業所得増につながらないと考える。

平成30年産以降のコメ政策見直しの基本的な考え方を、J A夏季座談会の場をお借りし、説明を行っている。

**伊藤** 座談会に農業者すべてが出席していない。そうした方への周知は。

**町長** 実行組合長会合同会議等あらゆる機会を通じ、周知していきたい。

10月以降に「目安の数値」設定や新とも補償制度内容等、川西町再生協議会臨時総会で決定の上、提示したい。

**伊藤** 国は「農業繁期の働き手確保」に「県農業労働力確保等対策推進協議会」を設立した。本町ではどのように取り組まれるのか。

**町長** 町としては、積雪状況、パトロール等で情報収集、住民からの通報等を基に、道路管理者、鉄道事業者へ除排雪の要請等を徹底し、安全確保を図っていききたい。

※新とも補償 転作面積の過不足を補償金で調整する。30年度以降は新しい制度となる。

新庁舎建設  
新庁舎の位置はいつ決めるのか

町長 - 理解をいただき、進めたい

**橋本** 庁舎位置の選定で、町長はJ A山形おきたま本店南側を位置案として示した。小松地区の住民からは、現庁舎の位置を中心に建設すべきだ、建設費削減のためにも町有地を優先に選定すべきだ、という意見が出ている。意見調整をどうするのか。

**町長** 事業の進め方については反省点もあり、今後丁寧な説明に努めたい。アンケート調査、住民説明会を開催し、これから出す建設費、設備概要などの基本計画案を示していく。最終決定は町民に理解していただく。



跡地利用計画を遅滞なく

**橋本** 計画では、庁舎位置を変更する場合現条例を改正する

いて進めたい。臨時議会を11月中に開催するとあるが、議員の判断はこの時となるのか。

候補地は、農地であるため農地転用の申請が必要であるが、農業委員会の申請締め切りは11月20日と聞く。町長の決断の期限もこの時期か。

**町長** 町民、議会の理解を得ながら進めていきたい。

**橋本** 仮に庁舎が現在地から移転した場合、跡地利用が問題となる。現在の街並みを形成し、住民生活の中心となっている庁舎周辺を、現在と変わりになく人、車、物などの流れを変えないような施設形成が必要である。小松地区より要望のある交流センターなどを建設し、今まで以上に住民が楽しめる活動の場を設けるべきだ。

**町長** 小松地区からは交流センターの建設を強く要望をいただいている。交流センター整備を跡地利用に

活用支援総合対策事業」というのがある。仙台市では「農業サポーター」として取り組まれている。こうしたことを調査研究し進めたい。

**伊藤** 町内16カ所の踏切除雪に、町としてどのような対策を行われるか



橋本欣一 議員

**町長** 小松地区からは交流センターの建設を強く要望をいただいている。交流センター整備を跡地利用に

**橋本** 大きな被害を出した羽越水害以来、河川整備等が進み大きな水害は発生していない。しかし、水害の危険箇所や土砂災害危険箇所が指定されているが、現状認識は。

# 一般質問

## 地産地消推進

### 「食と農」事業で活力あるまちづくりを

#### 町長 - 本町の資源を活用し活性化を図りたい



伊藤寿郎 議員

**伊藤** 島根県邑南町の取り組みでは、A級グルメのまちづくりを背景に、地産地消を推進するため「食と農」に主眼を置き、人氣レストランをはじめ、介護食、医療食、学校給食など事業展開し、雇用の創出や所得向上に結びつけた事例がある。類似点が多い当町においてこのような施策を検討、導入してはどうか。

**町長** 邑南町の事例は大変参考になる事例である。本町においても産業振興の活性化や観光面で交流人口の拡大を図るため、各種事業を展開し、まちの活性化と町民所得の向上に取り組んでいる。特に、紅大豆を中心とした「豆のあるまちかわにし」の認知度の向上に伴い、大手企業による紅大豆の商品開発や本町へのツアーの開催等が実施された。「食」をキーワードとした地域活性化の第一歩であり、本町の資源を活用した地域型循環経済の確立に取り組んでいきたい。

**伊藤** 農工商連携に関する部門や、「食や農」の学校に関する部門、6次産業化に関する部門の連携が必須と思われる。食と農を主軸に産業振興を図る狙いでの機構改革をどう考えるか。

**町長** 地域活性化に向けた、拠点施設である「かわにし森のマルシェ」を基に取り組みを強化している。機構改革は、情報の流れ、意思決定の速度、人材資源配分、要員数さらには職員の意欲など、効果的な組織再編には目的を絞る要件を明確に設定し、多面的に分析しながら対応していく必要がある。



農工商連携・仙山交流出店 - 大塚もち加工センター

**伊藤** 新庁舎整備、小学校の統廃合による管理計画の変更、個別計画の不安を抱く町民の声が寄せられている。現在の公共施設等総合管理計画の見直しや変更をどう考えているか。

現在、施設等の管理担当課において、管理計画に基づき、個別施設の状態や維持管理、更新等に係る対策の優先順位の考案、対策の内容実施時期などを定めた個別施設管理計画の策定に向けて検討を行っている。今後その結果を踏まえ、新庁舎整備事業等も含め管理計画の変更等を行っていきたい。

## どうする公共施設管理計画

### 町長 - 協議の場をつくり進めたい

**鈴木** 第5次総合計画の川西町公共施設等総合管理計画によると「川西町役場庁舎は1959年に建設した施設で耐用年数60年に迫っており、老朽化が進行していることから更新について検討を進める必要がある。町民の安全・安心を考慮するうえでも、町民の理解を得ながら更新の検討を進める」とあるが、理解は進んでいるのかを問う。

**町長** 時間も限られ制約もあるが、計画策定に当たっては町議会や町民の皆さんと十分な協議の場を作りながら進めてゆく。

**伊藤** 整合性をとって進めていくが、予算化の状況等により変更することがある」とあるが、この度の予定外の事態が発生したことで、それらの対応も変わってくるのではないかと、整合性の取り方を聞く。

**町長** 今年度より、国の鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、実施隊員へ支援の充実を図る。

**その他** 【川西プロジェクト】で「地域おこし企業人」「観光の拠点づくり6」で「インバウンドの対応」「農泊」について質問した。



ランドスケープの野沢温泉村「乙女」像・岡本太郎作

**鈴木** 星野リゾートの開発事業に10年目を迎える。また「本計画は、5年目に見直しを行う。ただし、かわにし未来ビジョンや実施計画と

以上かかわる、ランドスケープ\*アーキテクト長谷川浩己氏が、岩手県紫波町のオガールプロジェクトにデザイン

構造として関わり、みんなが当事者である場所というの、たぶんオガールプロジェクトのひとつの精神だと思ふ」と述べている。ランドスケープの必要性の認識と、それに伴う最も大切な町民がかかわる「町のデザインと街のデザイン」は存在するのかわを問う。

**町長** 今年度より、国の鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、実施隊員へ支援の充実を図る。



鈴木清左衛門 議員

\*ランドスケープ 景観を構成する諸要素  
\*アーキテクト 設計者、建設する者  
\*オガールプロジェクト 岩手県紫波町の駅前開発計画



# 補正予算

## 庁舎建設基金に5000万円

### 除雪費も増額

新庁舎建設に向け、基本計画（案）が開示され、積立基金を事業も増額補正を行った。

#### 庁舎建設基金 4億1000万円に

新庁舎建設を、平成32年度までに完成させるため、「町民の安全・安心を守り協働のまちづくりを推進する拠点」を基本理念とする

基本方針（案）が示された。

新庁舎建設の概算事業費は、本体工事22億5000万円、その他の工事に13億7000万円の、合計36億2000万円となっている。

#### スポーツ振興くじ 助成金減額

本年10月10日に完成予定の川西ダリヤパー

クゴルフ場の整備に係る宝くじ助成金の減額の内示（減額補正960万円）を受け、ふれあいの丘整備事業債（過疎債）で同額の補正を行う。

このパークゴルフ場をスポーツ振興のみに留まらず、地域間世代間交流・観光の拠点施設とし整備すること

で、ふれあいの丘の回遊人口の拡大につなげる。

#### 除雪費増額 1億2000万円に

冬季交通確保事業として、4000万円の増額補正を行う。昨年度は12月末までは雪があまりなく、1月に降

雪量が多くなり、交通障害などが発生した。今年も、幹線町道の車道及び歩道の除雪費として予算を増額した。道路交通の安全・安心を確保するため、合計1億2000万円とし、冬期間の交通確保に万全の体制で備えることとした。

#### 農業施設に補助

畜産生産拡大事業（県補助金）が廃止され、6032万円を減額補正し、これに代わり畜産経営競争力強化事業（県補助金）として、増額補正5188万円とした。繁殖牛舎・堆肥舎、及び家畜導入、ホイルローダー等の施設整備や機械の購入に充てられる。本町の畜産振興と畜産農家の競争力アップにつなげる。



交流人口拡大に

来年度オープンのパークゴルフ場

## 平成29年度 各会計補正予算

会計別	歳入歳出予算	議決の内容
一般会計(第4号)	105億3800万円 (7389万円を追加補正)	全員賛成により可決
国民健康保険事業特別会計(第1号)	21億198万円 (4616万円を追加補正)	全員賛成により可決
下水道事業特別会計(第2号)	5億2799万円 (239万円を追加補正)	全員賛成により可決
農業集落排水事業特別会計(第1号)	9076万円 (336万円を追加補正)	全員賛成により可決
介護保険事業特別会計(第2号)	19億8170万円 (52万円を追加補正)	全員賛成により可決
後期高齢者医療特別会計(第1号)	1億6658万円 (239万円を追加補正)	全員賛成により可決

## 平成29年度 一般会計補正予算の主な内容

(歳出)	
広域病院運営事業 負担金	▲2731万円
冬季交通確保事業 委託料	4000万円
空家対策事業 工事費等	243万円
教育・保育施設給付事業 補助金	1700万円
畜産経営競争力強化支援事業 補助金	5188万円
庁舎建設基金管理事業 積立金	5000万円
(歳入)	
普通交付税	1億109万円
社会資本整備総合交付金	▲1057万円
畜産経営競争力強化支援事業県補助金	4324万円
ふるさとづくり基金繰入金	1700万円
前年度繰越金	1億284万円
スポーツ振興くじ助成金	▲960万円
ふれあいの丘施設整備事業債	960万円
臨時財政対策債	▲1232万円

### 主な質疑

**問** 空家対策事業の内容は。

**答** 玉庭酒町地内に

ある空家が一部

倒壊し道路側に傾いて

いる状況であり、周辺

住民の安全確保のため

行政代執行を行う。

**問** 国際交流事業の内容は。

**答** ブラジルサンパ

ウロ州スザノ市の

ダリアプロジェクト

に、栽培技術者1人を

派遣する交通費及び滞

在保険料である。

**問** 教育・保育施設給付事業の内容は。

**答** 民間幼児施設で

ある認定こども

園小松幼稚園、および

あおぞら保育園の施設

整備に対する事業費補

助である。

**意** 施設の運営状況を把握し今後子育て支援の充実を図ること。

**問** 林道維持管理経費は。

**答** 融雪時に発生し

た堤沢林道の路面

崩落のため、通行止

め処置の強化、看板の

設置を行う。

**問** 元気な農業経営による所得1・3倍プロジェクト事業は。

**答** 元気なトップラ

ンナー育成事業

が廃止され、新規事業

へ移行したことによる

補正である。

**問** 道路維持管理経費の内容は。

**答** 町道中小松菊田

線の道路陥没に

よる復旧経費である。

# 請 願

## このように審査しました

請願名	請願者、紹介議員	所管	要点	審査の結果	本会議
地方財政の充実・強化を求める請願について	連合山形置賜地域協議会 議長 深瀬 裕介  紹介議員 高橋 照夫 斉藤 智志	総務文教常任委員会	地方自治体の財政需要を的確に把握し、これに見合う一般財源総額及び社会保障予算を確保するとともに、小規模自治体に配慮した地方交付税の強化をはかるべく、意見書の提出を求める趣旨のもの。	願意妥当で採択	全員賛成で可決
平成30年産以降の米政策見直しに関する意見書提出の請願	山形おきたま農業協同組合代表理事組合長 山形おきたま農協農政対策本部 本部長 木村 敏和  紹介議員 遠藤 章一	産業厚生常任委員会	国民の主食米生産を競争原理に委ねることなく、行政の積極的な関与と指導のもと、全ての産地・生産者・集荷業者等によるオール日本で取り組んでいく必要があり、コメの主産地として政府に意見書提出を求めるもの。	願意妥当で採択	全員賛成で可決
役場庁舎建設に伴う整備位置の見直しについての請願書	西区自治会長 会長 山口 徳夫  紹介議員 神村 建二 高梨 勇吉	総務文教常任委員会	耐震度が庁舎より低い中央公民館を取り壊し、一部民有地を取得しながら近年の建築技術力によって建設する方法もしくは、町有地を優先にされていた原点に立ち、小松駅東口周辺等に建設されるようにとの請願。	全世帯へのアンケート、各地区での説明会等で意見聴取を行うということから、審査未了で継続。	全員賛成で継続

## 9月定例会の議決状況

議会基本条例の規定により各議員の議案に対する賛否状況を報告する。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
議員名	伊藤 寿郎	伊藤 進	鈴木 幸廣	鈴木清左衛門	神村 建二	橋本 欣一	(高橋 照夫)	斉藤 智志	淀 秀夫	齋藤 修一	高梨 勇吉	金子 一郎	佐々木賢一	遠藤 章一	加藤 俊一
発議第13号 「全国森林環境税」の創設に関する意見書提出について	○	×	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	

町提案15議案、議員発議7議案、請願審査2件、上記以外は出席者全員賛成。

# 条 例

## 小学校8校から6校に 高山小・東沢小を閉校に



地域の新たな学びの拠点に - 左 東沢小、右 高山小

## 人 事

地域の意向を踏まえ進められてきた町立小学校の学区再編を実施するはこびとなった。これにより、高山小学校は中郡小学校に、東沢小学校は小松小学校に統合する。

それぞれに開校準備委員会を設け、平成30年4月開校を目標に協議を重ねてきた。この度、川西町立高山小学校及び川西町立東沢小学校を閉校とするため、川西町学校設置条例の一部を改正するものである。これにより本町の小学校は8校から6校になる。この条例は平成30年4月1日から施行する。

東沢小学校を閉校とするため、川西町学校設置条例の一部を改正するものである。これにより本町の小学校は8校から6校になる。この条例は平成30年4月1日から施行する。

新品種「雪若丸」を収穫  
曇り空の一日、恒例の小松小学校5年生の稲刈り体験が、置賜農高の実習田を借りて行われました。



表紙の写真

### 教育委員会委員の任命に同意

●金子 正美 (再任) 川西町上小松



前任者の残任期間平成29年9月30日付で任期満了となるため、提案されたものである。  
 ・平成20年川西町立東沢小学校校長就任  
 ・平成24年川西町立小松小学校校長就任  
 ・平成28年3月31日退職  
 ・平成28年4月1日川西町教育委員会委員就任

全員賛成で同意

今年の稲刈りは、本格デビューの「雪若丸」で、先生の説明を聞き、いつもより緊張した手つきで刈り取りをしていました。体験ということですが、列のみの刈り取りでしたが、腰をかかめての作業は大変そう、実った稲穂がいつそう重く感じるようです。「実るほど首を垂れる稲穂かな」今でも通じる一句です。

# 意見書

2件の請願と1件の陳情を採択したことに  
より、発議案件として  
3意見書が提出され、  
審議した結果いずれも  
可決された。

## 国に3意見書を提出

# 米需給調整に万全を期せ

平成30年以降のコメ政策見直しは、いまだ「平成30年産の姿が見えない」との声や「生産調整が不要になる」といった誤解があり、生産現場には不安と動揺がある。

コメの需給と価格安定は、生産者・消費者双方にとって重要で、平成30年以降も国民の主食用米生産を競争原理に委ねず、行政の積極的な関与と指導のもと、すべての産地・生産者・集荷業者によるオール日本で需給調整に取り組んでいく必要がある。

コメの主産地として強く要望する。

## 地方財政の充実・強化を求める

左記事項の実現を求める。

- 1、地方自治体の財政需要を的確に把握し、これに見合う地方財源総額の確保をすること。
- 2、社会保障ニーズの対応と人材確保に向け、社会保障予算の確保と地方財政措置を講ずること。
- 3、地方交付税の財源

## 「全国森林環境税」の早期導入を求める

「森林整備等に必要なた財源に充てるため、個人住民税均等割りの枠組みの活用を含め都市・地方を通じて国民に等しく負担を求める

ことを基本とする森林環境税(仮称)の創設」に関し、「平成30年度税制改正において結論を得る」と明記された。

森林・林業・山林対策の抜本的強化を図る「全国森林環境税」の早期導入を強く求める。

賛成多数により可決  
(反対1人)



## 広報モニターから ひとこと② 高山 那須 雄子さん

私は、今回の傍聴に関心がありました。なぜなら、質問の内容が「新庁舎の建設について」だからです。また、私は、町民から選ばれた議員の方が、町民に代わりどの様に質問するのか興味があります。

私は、今回の傍聴に個人として、議員のかたがた、町長はじめ職員のかたがたの町民に対する尽力が、今回は特に感じられたような気がします。

町民の一人として議会傍聴は、大切な役目だと痛感しました。これからも機会があれば、傍聴したいと思います。

時々傍聴しています。新庁舎建設については、午前中二人の議員の方が質問しました。建設場所を踏切の西側か東側かの考えで、町の案を白紙に戻した方が良いとのことでした。

私個人としては、小松地区にとらわれず、町全体のことを考えて質問をしてほしいと思いました。

他の質疑応答もありました。多額の費用をかけて建設するので、すから、もっと十分な時間があったらと思います。

# 特集

## 議会活性化

# 政務活動費の領収書公開

## ここが違う川西町議会

政務活動費の用途を巡っては、報告に領収書添付が義務付けられていないことから、著しく透明性を欠く例が後を絶たない。川西町議会では、議員に交付される政務活動費の領収書提出を条例で規定し、さらにすべてホームページで公開している。

川西町議会では、「議会政務活動費の交付に関する条例」の規定により、議員に月額1万円の政務活動費が交付されている。

平成15年5月から政務調査費として交付されていたが、25年度に地方自治法が改正され、名称が「政務活動費」となって現在に至っている。

政務活動費は、「議員の調査研究その他の活動に必要な経費の一部」を交付するとして

いる。政務活動費に充てることのできる経費は条例で定められており、調査研究費のほか研修費、広報・広聴費、要請陳情等活動費、会議費、資料作成費、資料購入費、事務所費、事務費、人件費の10項目とし、飲食費は認められていない。

### 調査研究費、事務費などに支出

議員から提出された使途報告書によれば、調査研究費、資料購入

### 研修報告書もHPで公開

費、事務費などの支出が多い。

川西町議会では「議会基本条例」第20条第2項に「使途報告書を提出するとともに町民に公開する」と定めている。25年度分から使途報告書をホームページで公開し、議会、だよりも掲載している。

さらに26年度分からは、ホームページで領収書を公開し、町民がだれでも閲覧できるようにしている。

当議会は、県内で最初に領収書公開に踏み切ったが、他市町村ではなかなか進んでいないのが実情のようだ。

近年、政務活動費の使途について全国各地で問題視され、その透明性を求めてマスコミやオンブズマンから、領収書の公開が求められている。

研修報告書も、議会活性化の一環である。

## ここが違う 川西町議会活性化 今後の掲載予定

第1回	予算特別委員会の常設化
第2回	政策提言と検証評価
第3回	政務活動費の領収書公開
第4回	情報の公開
第5回	議会基本条例
第6回	条例の議員発議

## 第3回 政務活動費の領収書公開

# 産業厚生常任委員会 大いに刺激、先進地に学ぶ (津和野町・邑南町)

## 総務文教常任委員会 新庁舎整備に向け先進地を視察 (南小国町・人吉市)



町民が利用できる南小国町議場

8月2～4日熊本県南小国町、人吉市を訪問し、新庁舎整備に関する先進地視察調査を行った。

### 多目的利用型の議場 南小国町

南小国町の議場は、町産の木材を多く使用

した多目的ホールであり、議場の管理は総務課が行い定例会等が開かれる際は議会側が借り受けるシステムで、常には町民が利用できる空間であった。ただし、イベントホールとして音響設備や備品等の経費と冷暖房の光熱

費がかさんでいるとのことであった。当町の議会でも開かれた議会を提唱しているもので、これらのことを参考にしていきたい。

が誕生した。しかし、翌年4月に熊本地震の発生を受け、災害復旧事業債の起債ができるようになり、防災拠点となる市庁舎の機能充実を図るため、総合型庁舎の整備方針へと変更することになる。

### 分散型庁舎から総合型庁舎へ 人吉市

人吉市新庁舎建設は、平成28年4月に発生した熊本地震前から計画があった。平成26年1月に市庁舎移転に関する校区ごとの説明会を実施するなどし、平成27年3月に新庁舎移転建設基本構想を策定した。

市長選が行われる時期であったため総合型庁舎か、分散型庁舎かの争点で争われ、分散型庁舎を主張した市長



被災した人吉市役所。内部の柱、はりにはびびだらけ。

分散型の庁舎整備ではなく、総合型庁舎であるべきと痛感した。また、総合型庁舎の利点はワンストップで利用者のニーズに応えられることも大事である。本町も計画策定に当たり、住民各位の意見を尊重し計画を示すべきと考える。

また、財源の確保や将来的な財政負担も慎重に検討し、事業を推進しなくてはならない。

8月24～26日、島根県津和野町、邑南町(おなんちょう)を訪ね、先進地視察調査を行った。

### 町ぐるみで糖尿病重症化を予防 津和野町

糖尿病は、合併症の発症など怖い病気と認識されている。津和野町では、特定健康診査の結果に基づき、詳細健診の指針に該当する人に、紹介状を送って受診を促している。

境界型・糖尿病型の割合は42%と高く、検査

後の適切な治療や指導につなげていくことが重要とのことだった。また、町主催で糖尿病教室、生活習慣病教室を開催し、啓発予防活動を行っている。情報の共有など、かかりつけ医との連携による重症化を防ぐための取り組みが先進的であった。

### A級グルメで町づくり 邑南町

邑南町がよく知られるのは、①日本一の子育て町



売り切れ続出の町の加工品・邑南町道の駅

②A級グルメの町づくりと、地域おこし協力隊の活用  
③徹底した移住者ケアの3点である。

今回の調査は、「A級グルメ構想」についてである。説明者は、NHKの「プロフェッショナル・仕事の流儀」で紹介された、邑南町役場食と農産物戦略室の寺本係長で、今や時の人である。

B級グルメによる地域おこしは一時ブームとなった。しかし、邑南町は、「Bではだめ、Aにこだわる」とし、

町長が先頭に立って、ここでしか味わえない食や体験を発信し続けた。その結果が「レストランAJIKUR A」、「食の学校」「農の学校」の立ち上げにつながり、定住者が240人、観光入込客数92万人、起業家数43人に結び付いた。

SNS(スピード、ネーミング、ストーリー)こそ、地域づくりの秘訣だという。地元産の商品を町民が購入する「地域循環経済」の実現を目指したいと述べていた。

### 議長交際費(議会活性化の一環として公開) 4月から9月まで

月	件数	金額	内容
4月	2	11,000	川西消防団幹部送迎会他
5月	4	22,000	置賜地方町村議会議長会臨時総会懇談会負担金他
6月	4	65,000	置賜三市五町議会連絡協議会定例会他
7月	1	5,000	株式会社平洲農園「記念祝賀会」
8月	1	13,000	置賜地方町村議会議長会正副議長連絡協議会他
9月	3	20,000	東京川西会の交流・懇親会会費他
上半期合計		136,000	

こんな質問・要望がありました(抜粋) ※<http://www.town.kawanishi.yamagata.jp> 議会ホームページで公開されます

地区	月日	会場	参加者	議員 (先頭が班長)
小松	8月22日	中央公民館	24人	加藤 俊一、佐々木賢一、淀 秀夫、斉藤 智志、橋本 欣一、鈴木清左衛門、伊藤 進、伊藤 寿郎
大塚	8月21日	大塚地区交流センター	14人	加藤 俊一、佐々木賢一、淀 秀夫、斉藤 智志、橋本 欣一、鈴木清左衛門、伊藤 進、伊藤 寿郎
中郡	8月21日	中郡地区交流センター	24人	遠藤 章一、金子 一郎、齋藤 修一、高梨 勇吉、高橋 照夫、神村 建二、鈴木 幸廣

	質疑、要望、意見	質疑等への回答・今後の対応
1	<p><b>新庁舎建設について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小松地区の市街地は駅西がほとんどで、新庁舎予定地の駅東となれば踏切を越えなければならない。冬期間の通行はさらに大変になる。</li> <li>○総合計画の前倒しとなり、福祉関係の見直しはどうか。増税になるのか。</li> <li>○米坂線を挟んでの往来の問題はどうか。</li> <li>○駅西の中心市街地活性化の見直しはどうか。</li> <li>○町の財政について説明してほしい</li> <li>○一番危惧されるのが、財政である。新庁舎の起債償還で町民に必要な予算が確保できないのではないか。</li> <li>○駅東案では、小松中心市街地の活性化は図れない。人の流れも変わる。基本計画に住民の声を反映させるように議員は頑張してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●踏切は以前から要望があり改善を町、JRに要望していく。</li> <li>●経費、財政については積算中であり、回答は控えたい。</li> <li>●小松駅の自由通路の利用者は限定的である。自由に行き来できる体制を要望している。</li> <li>●議員全員協議会で説明があった際、駅西の活性化については、新庁舎整備基本計画の中に盛り込みたいとのことであった。更地のままということはなく、小松地区で要望を取りまとめてほしい。</li> <li>●町の平成27年度末の起債残高は125億9605万円、内将来地方交付税に算入になる見込み額は81億5278万円で、差し引き44億4327万円が実質的な町負担額となる。</li> <li>●現状では財政について心配はない。町に対しては分かりやすい資料を求めている。地方交付税の算定は、町が必要な基準財政需要額から町税等基準財政収入額を差し引いた額が交付税として国から交付される。</li> <li>●中心市街地の住民も心配している。議会として、住民の多くの声をお聞きしたい。</li> </ul>
2	<p><b>議会活性化について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○定数については、現定数でも役職が多数あり、常任委員会の運営も考慮すると、見直しは次回で良いのではないか。</li> <li>○議員が減ったら常任委員会に支障はないか。委員数が3~4人では機能しないのではないか。今回の農業委員の人選とは違う。より多くの住民の声を反映させるためにも、定数を削減する必要はない。</li> <li>○定数を減らせば2常任委員会は成り立たないのでは。報酬も高くしてもっと働いてほしい。現定数で報酬アップ。</li> <li>○議員のなり手がいないということも聞いたが、定数、報酬、議会の開催日時等、様々な事柄を検討していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●意見としてお聞きする。</li> <li>●議員数が減れば、機能低下は否めない。以前にも定数について議論された折、住民からは別に削減しなくともよいのではないか、という声を頂いた。</li> <li>●意見としてお聞きする。</li> <li>●庄内町で夜間議会について検討されたが、開催日が膨大となることから実施に至らなかった。</li> </ul>
3	<p><b>町政全般について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○町長の姿勢に疑問を感じる。新庁舎について住民の意見を聞くとしながら意見を聞くタイミングを逃した。新庁舎の建設、現庁舎・中央公民館の解体除却、さらに進行中のメディカルタウンの整備はすべて町の負担になる。借入金がかさんでくることを住民にきちんと説明すべきである。JA本店南側ありきの説明では困る。</li> <li>○N T T光回線が入っていないのは山形県で川西町だけである。住民サービスの向上を図ってほしい。</li> <li>○「森のマルシェ」について、店長が変わったり定休日の変更があったりしているが、情報を流してほしい。</li> <li>○鳥獣被害が増加している。猟友会への助成金等の支援をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●意見としてお聞きする。</li> <li>●町としても重要であることは認識しており、重要事業として要望活動を行ったが、進展しない。 [未来づくり課] 現時点でN T T東日本は、採算が取れないとし整備しない意向。今後も同社と協議し、要望していく。</li> <li>●運営は指定管理としている、議会でも注視していく。</li> <li>●駆除者への支援を検討したい。 [農地林務課] 29年度から捕獲交付金、捕獲手当が増額された。</li> </ul>



大塚地区



小松地区



中郡地区

意見交換会

3会場で開催

新庁舎整備に厳しい意見

町民との意見交換会が8月21、22日の両日開催された。今回は大塚・小松・中郡地区で行われた。今年のテーマは「新庁舎建設」と「議会活性化(定数と報酬)」で、関心が高く活発な意見交換となった。

意見交換会は、議会基本条例で定められた最重要項目の一つである。議員各自は政治活動の中で地域の課題や個人の相談などの解決に日夜努力している。一方、大きな地域課題や政策的な事項に関しては、議会として取り組んだほうが進展する場面が多い。議会では、町長に対して毎年政策提言を行っている。意見交換会から出された町民の生の声を直接反映できる点が最大の成果といえる。

も中長期的な意見の反映となる。そのため、川西町議会では提言の執行状況を一年後に検証している。提言だけで終わらない点の特徴で、全国でもまれである。

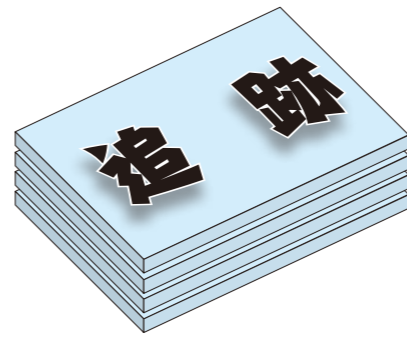
重要項目のテーマで意見交換

今年、新庁舎建設と議会活性化のテーマで話し合われた。新庁舎建設では、有利な補助制度の活用による、短期間での建設の際の位置と財政問題が中心となった。今回は十分な検討材料が提示できなかったため、当局に要望していくとの答弁が多かった。

議会活性化では、全国的に議員のなり手が減少し、定数割れや無投票が増える中、近隣市町でも定数を減らす傾向がある。しかし、すでに減らしたところからは急増する議会活動に対応できないとの報告もある。今後、頂いた意見は、議会活動に生かされる。地区センターをはじめ関係者に感謝し上げる。

**『政策提言』会議へのご案内**  
 第5回目の政策提言書の提出に町民の皆さんの傍聴をお願いします。  
**とき** 10月25日(水) 14:30  
**ところ** 川西町議会議場

# あれから…… どうなった！



## 東日本大震災から6年

### 原発事故避難の現状は

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から6年半以上が経過した。避難解除などにより、一部、地元へ帰還できるようになったとはいえ、元どりの生活とはならないようである。町では避難当時から国の制度と合わせ、町独自の支援を行ってきた。現状はどうか追跡してみる。



民間交流・新山神社獅子舞の慰問 - 相馬市

川西町では震災・原発事故の被災者に対して、一時避難所の設置、生活物資の提供などの支援をしてきた。被災当時は97人ほどが避難されていたが、年月とともに減少し、現在では10世帯30人となっている。

また、井上ひさし氏ゆかりの岩手県大槌町へは、職員派遣やバスツアー交流などの支援を行ってきた。大槌町からも、川西夏まつりの際「虎舞」披露や海産物販売での交流があった。復興と共に往来は少なくなったが交流は続いている。町では独自に在町の

避難者に対し、冬期間の除雪費・暖房費の補助や、児童生徒に対し学用品の補助などを継続して行っている。

#### 民間の交流に援助を

9月10日、福島県相馬市内の大野台第6応急仮設住宅に、中小松新山神社獅子舞一行が慰問に訪れた。ここには飯館村のかたがたが避難されているということである。この慰問活動は中小松ずらん歌謡会（鈴木正男会長）が数年前から行っているもので、民間（個人）での慰問活動は例のないものである。

一行約30人の大半は、獅子舞の若衆であり、若い人たちの慰問は、その獅子の勇猛さも加

わり、避難者への強い励ましとなっているようであった。交流会では、ふるさとに帰りたくても帰れない現状や、ふるさとの獅子舞のなつかしさなどが語られた。

避難所もあと1年の期限となり、空き家も目立つようになってきた。残されたかたがたは高齢者が多く、行き場探しの困難さなどが語られた。民間レベルの交流はあくまでもボランティアであり、貴重な交流である。参加した皆さんがお互いに喜び励ましあえる交流として、継続されることを望む。町としても民間の交流に対する援助を検討してほしいものだ。

## 全員協議会

新庁舎整備の検討状況と基本計画（案）の報告があった。

7月27日  
全員協議会

1、新庁舎整備に係る検討状況について

検討した内容は、基本的な考え方として、

①本庁舎を残し建設する場合

②本庁舎を解体し建設する場合

③現庁舎に耐震補強工事を実施する場合

④山形おきたま農協本店南側に移転建設する場合の、4パターンを検討した。その結果、

工事期間における役割業務の継続、町民サービスの維持、容易な工事施工、将来の本町の発展を見据えた総合的な観点から、新庁舎整備位置（案）を、山形

おきたま農協本店南側に隣接地とするとした。

2、指定管理者の選定について

現在工事中の川西ダリヤパークゴルフ場の

9月20日  
全員協議会

1、行政評価の結果について

平成28年度の行政評価が報告された。この評価は内部評価（各担当課長）と外部評価（まちづくり委員会）にわか

かれ、各事業を評価するものである。

内部の政策評価は、順調および、概ね順調

は（12）やや課題ありが（3）となった。外部の政策評価は概ね順調（3）、課題あり（3）

となった。この結果を分析し、事業の有効性を高め次年度以降の事業、予算に反映する。

2、新庁舎整備基本計画（案）を提示

新庁舎の規模は敷地面積1万2000㎡、

## 計報

ご冥福をお祈りします

高橋 照夫 議員



高橋照夫議員が、9月18日腎盂腎炎で逝去されました。高橋議員は、平成11年4月の町議会議員選挙から連続5期当選、18年5カ月の間議員として活躍され、議会の各委員長、議選監査委員、副議長などの要職を歴任されました。長年の功績をたたえ、在りし日を偲んで、心からご冥福をお祈りいたします。

合掌

まちの未来が見える（9月定例会の傍聴者は35人）

# 議会傍聴においでください

定例会本会議、予算特別委員会はNCV、インターネットで生中継  
議会フェイスブックもご覧ください

次の定例会は12月

# 町民の声

## 町内で楽しめる場所があれば

大字下小松地区にお住いの嶋貫晴香さんに、子育てや町に望むことなどをお聞きしました。

### ◆ プロフィール ◆

嶋貫晴香(しまめき はるか)

大字下小松在住  
夫と子ども2人、そして父母の6人家族。



#### 川西町に住んで

川西町に嫁いで5年になります。私は高島町の和田地区の生まれなので、田んぼに囲まれ夜になるとカエルの鳴き声が聞こえてくる川西町は、親近感が湧きとても住みやすい環境です。

#### 子育てについて思うこと

同世代の子どもをもつ先輩ママからのアドバイスを頂いたり、同居する祖父・祖母のサポートを受けながら子育てに奮闘中です。

都会では待機児童の問題があり、知り合いの中には第10志望まで出しても入れないという人もいました。私の家では、夫婦共働きなので幼い子どもたちを保育園や幼稚園に預け



かわいい子どもたちと一緒に

ることができてとても助かっています。

その反面、集団生活をする中でさまざまな病気にかかることもあります。川西町では高校卒業まで医療費が無料ということで経済的にも負担が少ないです。また、医療機関が充実していることも私たち子育て世代には強い味方になっています。

#### 川西町に望むこと

休日に出かけるとなると、どうしても町外

が多くなってしまいがちです。川西町で子どもを遊ばせる施設といえはダリヤ園の遊具がありますが、天気の悪い日は遊ぶことができません。子どもからお年寄りまで楽しめるような屋内の施設があればいいなと思いました。自然が豊かで、あなたかい人がたくさんいるこの川西町が、ますます住みよい町になっていくことを願っています。

### 編集のあとで

▼表紙の写真にいつも苦勞する。天候や編集スケジュールの都合でタイミングを逃してしまふこともある▼子どもたちのいきいきとした瞬間の表情をとらえ、町民に伝えていきたいと思つている▼画像の掲載にはプライバシーの問題があるが、学校や幼稚園の協力のおかげで子どもたちの写真を載せることができています▼今後ともよろしくお願ひいたします。(伊藤寿郎)

- 発行責任者 加藤 俊一
- 委員長 佐々木賢一
- 副委員長 伊藤 寿郎
- 委員 橋本 欣一
- 同 神村 建二
- 同 鈴木 幸廣
- 同 伊藤 進
- アドバイザー(文章) 金子 勤
- 同 平田 和雄
- アドバイザー(写真) 青木 督平
- 鳴 源一
- 齋藤 史郎